

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	
施 設 名	横浜能楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	11,772	(千円)
	公 演 事 業	7,497 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,275 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1 ※	「横浜狂言堂」第150回 記念 特別普及公演「家 ×家 交流狂言」※	令和3年1月30日(土) 令和3年2月6日(土)	狂言「朝比奈」(和泉流)野村万蔵 狂言「月見座頭」(大蔵流)山本東次郎	目標値	776
		横浜能楽堂 本舞台	狂言「八尾」(大蔵流)茂山千五郎 狂言「武悪」(和泉流)野村万作	実績値	518
2	企画公演「馬場あき子 と行く 歌枕の旅」※	令和2年10月10日(土) 令和2年11月22日(日) 令和2年12月19日(土) 令和3年1月23日(土) 令和3年2月20日(土)	・第1回「陸奥国・外の浜」 講演:馬場あき子、能「善知鳥」(観世流)野村四郎 ・第2回「信濃国・園原」 講演:馬場あき子、能「木賊」(金春流)櫻間金記 ・第3回「近江国・逢坂」 講演:馬場あき子、能「蟬丸」(観世流)大槻文蔵 浅見真州 ・第4回「上野国・佐野」 講演:馬場あき子、能「船橋」(宝生流)金井雄資 ・第5回「美濃国・野上」 講演:馬場あき子、能「班女」(喜多流)香川靖嗣	目標値	1,579
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	1,163
3	第68回 横浜能※	令和2年6月6日(土)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため次年度に延期。	目標値	388
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	0
4	特別公演※	令和2年10月25日(日)	狂言「靱猿」(大蔵流)山本東次郎、狂言「茶壺」(大蔵流)山本則俊、狂言「鬪罪人」(大蔵流)山本則秀	目標値	314
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	220
5	眠くならずに楽しめる能 の名曲※	令和2年12月12日(土)	狂言「夷毘沙門」(大蔵流)善竹隆司 能「小鍛冶 白頭」(金剛流)金剛龍謹	目標値	388
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	390

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト①「こども狂言堂」※	令和2年8月16日(日)	狂言「蚊相撲」(大蔵流)、狂言「柿山伏」(大蔵流)、解説 山本東次郎	目標値	388
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	201
2	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト②こども狂言ワークショップ「入門編」「卒業編」※	令和2年8月11日(火)～ 令和3年3月28日(日)	こども向け狂言ワークショップ 講師：山本則俊ほか	目標値	参加者 25
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	入門編：19 卒業編：8
3	横浜能楽堂次世代育成プロジェクト③ 「教育プラットフォーム」と 「先生のための狂言講座」※	令和2年8月16日(日)～ 令和2年12月16日(水)	教育プラットフォーム：横浜市内小学校へのアウトリーチ事業。狂言鑑賞、実技体験等 先生のための狂言講座：教職員を対象とした狂言の講座。狂言「柿山伏」鑑賞、山本東次郎による解説・質疑応答	目標値	教育プラットフォーム：横浜市内小学校5校(実施校の児童数)、講座：120
		横浜能楽堂 本舞台		実績値	教育プラットフォーム：474、講座：34
4	普及公演「バリアフリー能」※	令和3年3月20日(土)	解説 武田宗典 狂言「樋の酒」(和泉流) 三宅右近 能「清経 替之型」(観世流) 武田友志	目標値	314
		横浜能楽堂本舞台		実績値	230
5	伝統文化一日体験オープンデー※	令和2年12月6日	仕舞鑑賞出演：山井綱雄(金春流)他 舞台裏見学ガイド：山井綱雄(金春流)他、横浜能楽堂職員 小鼓体験講師：岡本はる奈(観世流) 太鼓体験講師：梶谷英樹(金春流) おりがみ講師：日本折紙協会認定講師 山崎雅翔 一閑張り講師：鏡原利子	目標値	500
		横浜能楽堂本舞台他		実績値	305
6	和のワークショップ※	令和2年11月3日他	横浜能楽堂芸術監督による能楽入門講座講師：中村雅之 能楽師(狂言方)が案内する横浜能楽堂とワークショップ「狂言の舞台裏、大公開！」講師：山本則重・山本則秀(狂言方大蔵流) ミニ門松づくりと横浜能楽堂見学講師：神奈川県立青少年センター指導者育成課 おとな狂言ワークショップ講師：山本則重・山本則秀(狂言方大蔵流) 日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学講師：武田裕子(日本画家) 能楽師(太鼓方)が案内する横浜能楽堂見学と太鼓ワークショップ講師：梶谷英樹(太鼓方金春流)	目標値	120
		横浜能楽堂本舞台他		実績値	190
7	横浜能楽堂施設見学会※	令和2年7月31日他	仕舞鑑賞出演：梅若紀彰(観世流) 舞台裏見学ガイド：梅若紀彰(観世流)他、横浜能楽堂職員 小鼓体験講師：岡本はる奈(観世流) 定例施設見学日ガイド：横浜能楽堂職員	目標値	500
		横浜能楽堂本舞台他		実績値	144

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>横浜能楽堂を所有する横浜市は「文化芸術創造都市」として4つの基本方針を挙げています。 【参考】 横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方 http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/outline/kangaekata/kangaekata.pdf</p> <p>また、横浜市は横浜能楽堂に求める役割として5つの柱を挙げています。 【参考】 横浜市能楽堂（横浜能楽堂）指定管理者業務の基準 https://www.city.yokohama.lg.jp/business/kyoso/public-facility/kaku-katsuyou/bunka/senteihyoka/nougakusentei/nougaku.files/0016_20180926.pdf</p> <p>横浜能楽堂では、これらを念頭に「古典芸能で自国の伝統に誇りを持つ 現代に生きる力をはぐくむ」というミッションを掲げています。そのミッションを達成するため、市民に横浜能楽堂および古典芸能に親しんでもらうための活動、また市内に止まらず国内外に横浜能楽堂の魅力を発信していけるようなユニークな活動を行っています。</p> <p>令和2年度は、横浜市の有形文化財としての横浜能楽堂の魅力を活かし、地域コミュニティやMICEとも連携した各種の「施設見学会」、次世代育成を目的とした「こども狂言ワークショップ」「こども狂言堂」、芸術性が高く能・狂言の振興・発展に寄与する「横浜狂言堂」第150回記念 特別普及公演「家×家 交流狂言」、企画公演「馬場あき子と行く 歌枕の旅」「特別公演」などを感染症拡大防止をはかりながら実施しました。6月に予定していた「第68回 横浜能」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため次年度に延期となりました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>【文化的意義】 令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、多くの公演が延期・中止となり、演者は実演の機会が失われ、また観客は舞台鑑賞に接する機会がなくなる、という事態に見舞われました。そのような中、10月25日に横浜能楽堂特別公演を開催。狂言方山本東次郎家による狂言3曲を上演。山本則光は、観客を前にしての舞台は本公演が初めてとなりました。「鞆猿」の子猿は幼年の役者が舞台人生の最初期に演じる重要な役。また山本則重にとっても猿引の役は、初役であり、山本東次郎家の芸が親から子へ、そして孫へと受け継がれていく貴重な機会となりました。助成のおかげでこのような状況下でも公演を無事開催することができ、地域住民の鑑賞活動の拡大とともに、文化芸術活動水準の向上に寄与することができました。</p> <p>1月30日、2月6日には、特別普及公演「家×家 交流狂言」を開催。平成20年から毎月開催している普及公演「横浜狂言堂」が令和2年で開催150回を迎えるのを記念して、異なる家の演者が共演するという特別なプログラムを上演しました。今回は二流七家の演者が出演。緊急事態宣言の期間と重なったため、来場者からは「他家交流は特別な時の楽しみで最高だった」といった声が寄せられるなど、貴重な機会を喜ぶ声が多く聞かれました。助成により、普段は見られない演者の組み合わせによる特別な公演が実現でき、演者にも、新しい刺激をもたらす機会となり、地域の文化水準の向上に貢献することができました。</p> <p>【社会的意義】 横浜能楽堂に求められる役割の柱の一つ「能楽等の継承・振興・発展に向けた次世代育成・愛好者の拡大」では、様々な層に芸術への参加機会をひらく、社会的包摂の視点が重要となっています。横浜能楽堂では、市内小学校に実演家を派遣する「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」、教育現場のニーズに応えた「先生のための狂言講座」など次世代育成事業を実施しています。また「バリアフリー能」では、市内の福祉団体と連携して、ソフト面・ハード面両面でのアクセシビリティの向上を毎年行っています。助成により、このような社会包摂の取組を実現させることができました。</p> <p>【経済的意義】 古典芸能の上演には、多くの出演者を必要とすること、遠方に拠点のある実演家も多いことなどから、多くの経費を要します。助成により、比較的安価な入場料で公演鑑賞の機会を提供することができました。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

【目標1】 地域コミュニティとの連携

◆指標1 地域コミュニティでの広報活動2回以上

⇒3「第68回 横浜能」=0回、5「眠くならずに楽しめる能の名曲」=2回

「眠くならずに楽しめる能の名曲」では、地域コミュニティの広報媒体2件に掲載され、神奈川県内の来場者が8割を占めました。「第68回 横浜能」は新型コロナウイルス感染症の影響により次年度に延期となりました。

【目標2】 古典芸能の国内外への発信、来場者への多言語による鑑賞支援

◆指標2 多言語による字幕配信の実施 ⇒3「第68回 横浜能」=0回

◆指標3 PR動画の作成1件以上 ⇒1「家×家 交流狂言」=1件、2「馬場あき子と行く 歌枕の旅」=2件
公演PR動画を作成することで、これまで横浜能楽堂のYouTubeチャンネルを見たことがない方にも見ていただけ、横浜能楽堂のチャンネル登録者の層が広がるとともに、横浜能楽堂の認知度の向上につながりました。

【目標3】 企画性の高い事業実施による横浜能楽堂のブランド力向上

◆指標4 新聞掲載3回以上

⇒1「家×家 交流狂言」=0件、2「馬場あき子と行く 歌枕の旅」=3件、4「特別公演」=0件

◆指標5 券売率75%以上

⇒1「家×家 交流狂言」=60%、2「馬場あき子と行く 歌枕の旅」=51.1%、4「特別公演」=48.9%

新型コロナウイルス感染症の影響により、座席数を制限して販売したため、券売率は低くなってはいるものほぼ設定席数に対しては完売しました。「馬場あき子と行く 歌枕の旅」ではその企画性の高さから、新聞3社に取り上げられました。

普及啓発事業

【目標1】 裾野の拡大、能楽と市民が出会う空間を創造

◆指標1 初来館者が占める割合60%以上 ⇒5「伝統文化一日体験オープンデー」=48%

◆指標2 初来館者が占める割合40%以上 ⇒6「和のワークショップ」=33%

新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者の来館控え、人数制限により、来館者数・初来館者が減少しました。しかし、開催により、他ワークショップの申込や公演の予約につながり、能楽と出会う場となりました。

【目標2】 次世代の育成、伝統の継承

◆指標3 来場率80%以上 ⇒1「こども狂言堂」=93.4%

◆指標4 入門編から卒業編への進級率25%以上 ⇒2「こども狂言ワークショップ」=50%

◆指標5 入場者数120人以上、アンケートの満足度4.9以上 ⇒3「先生のための狂言講座」=36人、5.0

新型コロナウイルス感染症の影響により、「こども狂言堂」では、客席数を制限し開催。来場率は高く多くの子どもたちに能楽に触れる機会を提供できました。「こども狂言ワークショップ」では、入門編の参加者のうち半分もの子どもが卒業編へと進み、多くの子どもたちに狂言に興味をもってもらえました。「先生のための狂言講座」は夏休み期間が減り、夏休みの最終日の開催となったため、参加者数は減少したものの、高い満足度となりました。

【目標3】 アクセシビリティの拡大とユニバーサルな社会への取り組み

◆指標6 新規サポート(サービス)数2件以上 ⇒4「バリアフリー能」=3件

お出かけが難しい方にも楽しんでもらえるよう①オンラインで横浜能楽堂を自由に探検できる「バーチャル能楽堂」、②本舞台や楽屋を字幕付きの動画で案内する「みる・きく施設見学会」、③当日の公演動画に字幕・副音声をつけた動画のデジタルコンテンツを新たに提供することで、より多くの方に能狂言にアクセスできる環境づくりを実現しました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

令和2年度に実施した事業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、計画通りの事業の実施ができず、中止、延期、日程変更等、計画からの変更を求められました。

□事業期間について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6月開催予定の「第68回 横浜能」については次年度へ延期したほか、一部事業については、予定の日程を変更し開催しました。

延期事業

- ・「第68回 横浜能」6月6日

中止事業

- ・「施設見学会」4月9日、5月14日、6月11日、7月9日

日程変更を行った事業

- ・「横浜狂言堂」第150回記念特別普及公演「家×家 交流狂言」
 - 第1日 令和2年6月27日(土)→令和3年2月6日(土)
 - 第2日 令和2年7月5日(日)→令和3年1月30日(土)
- ・「春の特別見学会」4月初旬の土日 10時、14時 → 3月下旬の土日 10時、14時
- ・「伝統文化一日体験オープンデー」8月→12月に変更

□収支について

新型コロナウイルス感染症の感染状況や政府方針により、客席数を50%~100%で調整を行うとともに、体調のすぐれないお客様や来場に不安のあるお客様のキャンセルを受付けたため、ほぼすべての公演において、収入が当初の予定より減少しました。また極力コストカットを試みたものの、収益率は当初の予定から低下しました。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【視点1】

(1) 劇場・音楽堂を象徴する人物、鍵となる人物の存在

◆芸術監督 中村 雅之

芸術監督は、幅広い知識や海外の芸術団体とのネットワークを活かし、古典芸能の専門館として高い評価を得てきた横浜能楽堂の芸術面での方向性を決定し、質の高い公演を提供する責任者です。横浜能楽堂での各公演のプロデュース、講演活動の他、吉祥寺薪能など外部での解説、明治大学兼任講師、につぼん文楽プロデューサーなどを勤め、「歌い踊る切手 古典芸能トリビア Book」（切手の博物館刊）、和菓子の芸心（東京新聞にて月1回連載）などの執筆活動を行っています。

横浜能楽堂では、古典芸能に関わる幅広い知識や経験を活かして、令和2年11月3日に、「横浜能楽堂芸術監督による能楽入門講座」で講義。歴史の視点で「能」が過去の危機をどう乗り越えてきたか、また現在の能楽界における危機とは何かについて話し、参加者からは、「時代背景もわかりやすく歴史から理解することができました。」「能や芸態の歴史の大枠をわかりやすく解説して頂き良かった。」「非常に勉強になりました。又、能楽に対する切り口や考え方に共感できることが多かったです。」等の感想がありました。

また、普及公演「眠くならずに楽しめる能の名曲」では、冒頭に芸術監督によるトークを実施。能・狂言の「眠くならない」楽しみ方について、初心者でも楽しめるポイントをわかりやすく解説しました。来場者からは、「あらすじを事前の解説で知ることができたので、上演中の言葉がわからなくても十分に楽しめた。本当に寝なかったです！」といった声が寄せられるなど、能楽初心者への間口を広げる機会につなげることができました。

(3) 創造活動に関わる建物整備など

横浜能楽堂の本舞台は明治8年に東京上根岸の前田斉泰邸に建てられた、現存する関東最古の能舞台で、横浜市の有形文化財にも指定されています。舞台の背面にある鏡板には松とともに、白い梅が描かれているところが大きな特徴です。そこで、梅の咲く季節に合わせて、令和3年1月16日に鏡板の梅を描く「日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学」を開催。参加者には、まず本舞台の鏡板を見学した後に、同じ図柄の鏡板のある第二舞台に移動して、鏡板を見ながら日本画の手法で梅を描いていただきました。有形文化財に指定されている能舞台・鏡板という希少性のある建物設備を活用した取組内容となりました。また、「能楽師(太鼓方)が案内する横浜能楽堂見学と太鼓ワークショップ」では、参加者が一人ずつ本舞台上がり太鼓を打つ体験をしていただきました。「舞台上上がった時は、気持ちがい上がりました。」「舞台上にもあがれて貴重な経験ができました。」等の感想があり、本舞台上がるという希少な経験は参加者の創造活動を刺激する取組となりました。

(4) その他

来館者の安心安全のため、新型コロナウイルス感染症の状況により、座席数を減らしてチケット販売を行いました。また、専門家の助言を受け、公演当日は正面入口での検温・消毒に加え、観客席の扉ごとに消毒液を設置するほか、公演中も一部扉を開放し空気の循環を促すなどの対策を講じました。また、楽屋には消毒液・サーキュレーター、および網戸を設置し、感染症対策を行いました。

【視点2】

(1) 公演、人材養成、普及啓発の企画内容、芸術性

・企画公演「馬場あき子と行く 歌枕の旅」

「歌枕」をテーマに、関連する能を取り上げた5回シリーズの公演。和歌に詠まれた名所・旧跡である「歌枕」は、その土地の自然や伝説など特定のイメージを叙情性豊かに連想させ、旅をすることが困難だった古代・中世の人々にとっては憧れの場所でした。そのため、「歌枕」の地は多くの能の作品の舞台ともなっていますが、今日「歌枕」は、顧みられる機会が少なくなっています。そこで本公演では、都から陸奥までを結ぶ東山道に存在する「歌枕」に関連する能を上演。上演前には、歌人で文化功労者の馬場あき子を案内人に迎え、「歌枕」に関する歌や伝説について講演し、「歌枕」の魅力を多角的に再発掘しました。

出演者には、人間国宝の野村四郎ら第一線で活躍する能楽師を揃えました。第3回では、人間国宝の大槻文蔵と紫綬褒章受章者の浅見真州が「蟬丸」で共演し、クオリティの高い舞台を披露。第2回で櫻間金記のシテにより上演した「木賊」は金春流では、1969年に復曲されて以来約半世紀にわたり上演されておらず、レパートリーの継承という面でもとても貴重な機会となりました。講演者の馬場あき子は現在、能の解説はほとんど行っていないが、今回は歌を中心とした講演ということで、特別に出演ができませんでした。観客からは「理解が深まり見所も

わかったので、舞台上に集中できた」「能と和歌などのつながりが分かり、古典文学にも興味がわいた」などの声が聞かれ、非常に好評でした。

・特別普及公演「家×家 交流狂言」

現在、狂言には和泉流と大蔵流という二流がありますが、異なる家の演者同士が共演する機会は非常に少なくなっています。本企画では、定例の普及公演「横浜狂言堂」でおなじみの4つの家の当主をシテ（主役）に迎え、相手役に他の家の演者を配してプログラムを構成。「横浜狂言堂」の開催150回の節目を記念する特別な機会として、普段は見るできない演者の組み合わせが実現しました。同流・異流、同世代・異世代の様々な組み合わせで、人間国宝から気鋭の若手まで二流七家の幅広い演者が一堂に会するラインナップにより、狂言の多彩な魅力を楽しめる新たな視点を提供することができました。来場者アンケートでは、特別な企画を喜ぶ声をはじめ、演者や演目について各自の視点で楽しむ記述も多くみられました。

・和のワークショップ

「ミニ門松づくりと横浜能楽堂見学」を新たに企画。近隣の公共施設である神奈川県立青少年センター指導者育成課では、過去に門松づくりのワークショップを開催した実績があるため、連携を図ることで、能楽堂では実績のなかった門松づくりのワークショップを事前準備から当日運営までスムーズに実施できました。

・普及公演「バリアフリー能」

横浜能楽堂では障がいの有無にかかわらず様々な方が一緒に能楽を楽しめるよう各種サポートを用意し、普及公演「バリアフリー能」を毎年開催。併せて、事前にサポート付きで能舞台と楽屋を見学できる「バリアフリー施設見学会」も行っています。令和2年度は、感染症への不安から外出を控える方に配慮し、公演や施設見学会の雰囲気オンラインでも楽しめるコンテンツを新たに3本公開しました。

①「おうちで楽しむ能楽堂」と題して、VRと動画で施設見学会の雰囲気を楽しめるコンテンツを構成。VRでは、館内を立体撮影したバーチャル空間を自由に移動しながら、360度ぐると見ることが可能で、普段は上がれない舞台や楽屋も出入りでき、能舞台の各所の説明も読むことができます。②視覚障がい者やパソコンの操作に不慣れな方に配慮し、ワンクリックで再生できる施設紹介動画も作成。音声ガイドの要素で台本を構成し、字幕を付けることで、見るだけ・聞くだけでも楽しめる内容としました。③3月20日に開催された普及公演「バリアフリー能」の記録映像に副音声と字幕を付けて、期間限定で無料配信を行いました。コロナ禍以降、能楽の動画配信は増えてきているが、公演全編を無料で観られるコンテンツは限られています。さまざまな理由で外出できない人をはじめ、幅広い方に能楽に親しんでいただける機会を提供することができました。

・次世代育成プロジェクト

「こども狂言ワークショップ」「横浜市文化芸術教育プラットフォーム」など次代を担う子どもたちが古典芸能に親しむ機会を提供する事業を実施しました。ワークショップの講師は、狂言方大蔵流山本東次郎家が務めました。同家は狂言方として実績があるほか、子どもたちへの指導の面でも卓越しています。子どもたちの意識もとても高まり集中して取り組む様子が見られ、保護者からも好評を得ました。また、「先生のための狂言講座」では当主の人間国宝・山本東次郎氏が解説・質疑応答を行いました。東次郎氏は、横浜市内の公立小学校で採用されている国語の教科書（光村図書・6年）に『柿山伏』について」という随筆を寄稿しており、教職員に向けて狂言の魅力や作品のもつ本質などをより実感を持って伝えることができました。参加者からは、「出演者の話を直接伺うことができ理解が深まった。」「子どもたちにもぜひ伝えたい」という声が上がった。魅力的な授業づくりに役立つ機会を提供できました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

普及公演「バリアフリー能」では、事前にスタッフに向けてコロナ禍で障がいのあるお客様をお迎えするにあたっての対応について「バリアフリー研修」を行いました。また、周辺の文化施設のスタッフにも周知を行い、参加者を受け入れ、知識の共有を行いました。また、特別施設見学会「NOH GAKUDO for everyone～みんなで楽しむ能楽堂～」では、近隣の文化施設である神奈川県立音楽堂に、見学時の通訳と新型コロナウイルス感染症対策について情報提供を行い、視察を受け入れました。

(5) 持続性

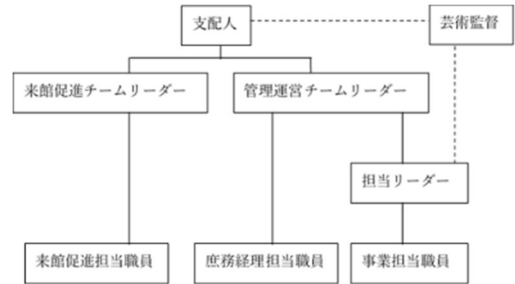
自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【人材面】

平成31年度より、全国の能楽堂でも初めてとなる芸術監督のポストを新設。公演の芸術面・企画面での統括を専門的に行うことでより質の高い公演実施が可能となっています。また来館促進チームでは、も来館促進を目的とした事業に力を入れ、施設見学会やワークショップ等、公演以外の能楽堂の魅力アピールする事業数が昨年度より増加しました。

公演制作は、令和2年度はプロデューサー2名を含む4名が担当。企画立案や制作を行うことで事業全体を円滑に実施しています。プロデューサーは横浜市芸術文化振興財団の実施する専門人材研修（令和2年度は2回実施）に参加しスキルアップを図るほか、Management By Object 制度を用いて担当事業の目標を定め、年度末に振り返りを行うことで、今後の事業運営に活かしていくシステムが構築されています。また古典芸能の公演制作には、専門性を持つ職員の存在が不可欠です。当財団においても人事異動はありますが、プロデューサーは平均9年、他の担当職員は4年横浜能楽堂で勤務しており、安定した運営が可能となっています。また、古典芸能に関する専門知識を有する職員について本人の資質を踏まえて契約職員から一般職員に登用するなど、中長期的な視点に基づいた人事施策を実施しています。



横浜能楽堂組織図

【財務面】

横浜能楽堂の主な収益基盤は、「助成金収入」の他、「横浜市指定管理料収入」「自主事業収入（入場料収入等）」「施設利用料金収入」の3項目であり、この4項目で全体の約95%を構成します。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、自主事業収入、および施設利用料金収入が減少しました。その中でも、中止公演を除く各公演事業においては、入場率（設定席数を分母とする）は目標を上回りました。ワークショップ等では、定員人数を減らす一方で、回数を増やすなど、自主事業収入の確保に努めました。

【ネットワーク】

横浜能楽堂の建つ紅葉ヶ丘近辺は、神奈川県立音楽堂、神奈川県立図書館、神奈川県立青少年センター、横浜市民ギャラリーと5つの公共施設が集まる地域です。互いの施設の管理運営についての情報交換を平成30年度より始め、「紅葉ヶ丘まいらん」として5館連携イベントを開催してきました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、イベント開催はありませんでしたが、twitterとFacebookに「紅葉ヶ丘まいらん」公式アカウントを開設して記事を投稿、パンフレット「横浜・紅葉ヶ丘さんぽマップ」を制作し、5館の協働により地域の魅力を発信する広報活動を行いました。今後も継続して連携していく予定です。



「紅葉ヶ丘まいらん」公式 Facebook トップページ